

するため、D区分以上の運動制限が必要となる。同時にこれらの児では、ワーファリンによる抗凝固療法を行っていることが多いため、運動に伴う外傷性の出血性疾患にも注意しなくてはならない。

長期的に動脈硬化症の進展に関与する可能性は、重症冠動脈障害を有する例に関しては無症状でも危険因子であることは避けられないとされる。しかし、軽度の病変の例や、正常冠動脈と評価されているものに対して明確ではない。長期的に対象者の経過に関する情報を収集し、再評価していく必要がある。

## II 心電図上での右脚ブロックパターンの扱い方について

### 1. 不完全右脚ブロックの問題点

不完全右脚ブロックで問題となるのは心房中隔欠損症である。参照①のように、後ろの R 波の高い場合に心房中隔欠損症が多いことがわかっている。これは右室容量負荷が増加していくためと考えられている。従来から、本委員会では1次検診で原則に後ろの R 波が高いものを抽出している。

2次検診に抽出された不完全右脚ブロックは心臓超音波検査を施行し心房中隔欠損症を除外する必要がある。医師会診療所にも心臓超音波検査を実施しているので、利用をお勧めする。

また、1次検診にて不完全右脚ブロックで抽出されたが、2次検診では正常化しているものが、時々みられる。不完全右脚ブロックの所見の変動は、検査日時の差や胸部誘導の位置のずれによる可能性もあり得る。このような場合は、参照②のように胸部誘導を1肋間上にして、再度心電図検査を実施してみることが推奨される。

参照① 森 忠三 氏 若年者心疾患対策協議会誌 1987 vol 17

不完全右脚ブロックと心房中隔欠損症の関係を示した表で、右脚ブロックを Type I・II・IIIに分け各 Type をさらに A~D まで分けた。心房中隔欠損症は Type III に多いことが解った。後ろの R 波が高いものに注意を要する。

|        | Type I         |                |       | Type II |       |    |    | Type III |    |       |    | UD  |
|--------|----------------|----------------|-------|---------|-------|----|----|----------|----|-------|----|-----|
|        | B              | C              | D     | A       | B     | C  | D  | A        | B  | C     | D  |     |
| 0-4y   | ●●●●●<br>●●●●● | ●●●●●<br>●●●●● | ●●●●● | ●●●●●   | ●     | ●  | ●  | ●        | ●  | ●●●●● | ●  |     |
|        |                |                |       |         | □     |    |    | □□       | □□ | □□□□  |    | □   |
| 5-9y   | ●●●●●<br>●●    | ●●●●●<br>●     | ●●●●● | ●●●●●   | ●●●●● | ●● |    | ●●       |    | ●●●●● |    | ●●● |
|        | □              |                | □     | □□      |       | □  |    | □        | □□ | □     |    |     |
| 10-14y | ●●●●●<br>●     | ●●●●●<br>●●    | ●●●●● | ●       | ●●●●● | ●● | ●● | ●        |    | ●     | ●  | ●●● |
|        | □              |                |       |         |       |    |    | □        |    | □□□□  | □  | □   |
| 15-18y | ●●             | ●●●            | ●     | ●●●●●   | ●●    | ●● | ●  | ●        |    | ●     | ●● | ●●  |
|        |                |                |       |         |       |    |    |          | □  | □     | □□ |     |

□ ASD                      ● IRBBB

波形の分類 Type I A : rS B : rr'S(r>r') C : Rs r'S D : rS r's'(r>r')

Type II A : rS r'(r=r') B : rS r'(r>r') C : rS r'(r<r') D : rS r's'(r<r')

Type III A : rsR' B : rR' C : rr'S(r<r') D : rsR'S'

対 象 不完全右脚ブロックを呈するもの 0-4歳 : 40名  
 5-9歳 : 36名  
 10-14歳 : 31名  
 15-18歳 : 22名  
 計 : 129名  
 このうち、心房中隔欠損症を有するもの : 32名